

## UNEP現場視察



視察の目的を説明するUNEP代表のスーリヤ・チャンダック氏

2月29日、外務省が要請した「海外・国内専門家知見共有プロジェクト」の一環として、国連環境計画（UNEP）の視察団が現場を訪れました。洪水、ハリケーンなどの数々の災害復旧に携わってきたUNEPと、東日本大震災を経験した日本がもつ知識を共有して今後の災害対応に生かすことが目的とのこと、石巻ブロックの災害廃棄物処理業務に対しては提言が行われることになっていきます。今回の視察の様子を取りまとめた映像は国連のホームページから全世界に動画配信されるほか、国連関連イベントにて使用される予定です。国内はもとより、全世界が注目する今回の業務。期待に応えられるよう、JVの総力を結集して引き続き業務に取り組んでまいります。

3月1日の安全大会で、職員、作業員から募集した安全標語の表彰が行われました。約200件にものぼった応募の中から、太平電業株式会社の中村から、基宏さんの作品「安全復興 行く手を塞ぐ危険の芽 皆で摘み取り 無災害」が最優秀賞に輝きました。このローガンのもと、安全・安心な現場を職員、作業員全員で築いていきます。



表彰される堤さん



左に見える煙突から「復興の狼煙」が上がる日も近い



正面に見える銀色の塔は、焼却に伴って生じる排ガスを完全燃焼させて低公害化する「再燃焼室」

5月中旬に第1基目の稼働が予定されている焼却炉が、その姿を露わにし始めた。写真はロータリーキルンと呼ばれる焼却炉で、直径約5m、長さ30mの円筒状の炉の中で廃棄物を焼却する仕組みとなっており、円筒がゆっくりと回転（2〜3回転/時間）することで、廃棄物の送り出しと攪拌が行われ、連続的な燃焼・焼却処理が可能な構造となっています。このタイプの炉は、多種雑多で形状もさまざまな廃棄物を一度に処理できる点で優れており、今回の業務においても活躍が期待されます。このほか、ストーカ炉と呼ばれる一般的な焼却炉も建設中で、8月には、ロータリーキルン炉2基、ストーカ炉3基、合計5基の焼却施設が完成する予定です。

## 焼却炉の建設進む (Bヤード)

『安全復興 行く手を塞ぐ危険の芽 皆で摘み取り 無災害』

## 写真で見る「粗選別、破碎選別、土質改質ヤードの造成状況」(Aヤード)



Aヤードの玄関であるトラックスケールの設置状況。1次仮置き場から廃棄物を運んできたトラックは、ここで積荷の重量を計測します。



漁網の積込状況。通常の破碎機では歯に絡んで処理できないため、デンマーク製の高性能破碎機を導入する予定です。



ヤード内に山積みされた津波堆積物（津波によって陸にあげられた土砂）の運搬には、35t重ダンプが活躍しています。



混合廃棄物のフレコンバッグ詰め状況。県外搬出の目途が立たないため、ヤード内や周辺の空地への仮置きを行っています。

## 墓石 芯抜き供養



2月24日、ヤード内に運び込まれた墓石や仏像の芯抜き供養を、法山寺の住職に行なって頂きました。JV職員、協力会社の職員が出席しました。

## はたらく機械シリーズ② 泥上式スタビライザー (ソイルライマー)



通常の機械では進入できないような、超軟弱地の地盤改良(地盤を強固に改良すること)を行うための機械です。左右のキャタビラーが浮船のような構造になっており、泥槽でも作業ができます。当現場では、Aヤード南側の軟弱な埋立地の地盤改良に活躍しています。



## —3月の予定—

- 3/1 安全大会
- 3/2 東京都視察、フジテレビ取材
- 3/3 日本テレビ取材
- 3/6 アスベスト対策講習会
- 3/8 仙台放送取材
- 3/9 避難訓練、日本テレビ取材
- 3/12 鹿島東北支店安全パトロール
- 3/18 河北新報特集記事掲載
- 3/29 鹿島東北支店幹部パトロール、暴排・災害防止協議会

## ①出身地 ②主な職歴 ③趣味・特技 ④抱負

- ①福岡県
- ②地下鉄工事1年、災害復旧工事半年
- ③スノボ(今年から始めました。すっかりハマっています。)
- ④任された仕事を誠実に、精一杯頑張ります。



工務担当 筒井 紀行

## JV職員紹介

④定年まであと少し。目が霞もうが、膝が外れようが、歯が抜けようが、髪がなくなろうが、老体に鞭打って、「百毒処理一筋」でやらせて頂きます。



副所長 佐藤 歳幸

